

趣旨説明

日高友郎
(福島県立医科大学)

心理学においてナラティブが注目されるようになり、ずいぶんと長い時間が経ったように思います。しかしナラティブに注目した、あるいはナラティブを用いた研究方法の有用性はどこにあるか、どう分析したらいいか、といった点に疑問をお持ちの方も多いかと思います。また近年では、「語り」をナラティブデータとして集めていく時に不可避な、研究者と調査協力者との関係の中で生じる「語る経験」、「語る行為」といった側面も、研究において無視できないものとなってきています。本ワークショップにおきましては、心理学の観点から法、医療、福祉の分野の研究に従事する若手研究者を話題提供者としてお迎えし、それぞれの研究分野が抱える課題について、実際のナラティブデータを交えながら研究報告をしていただきます。さらにナラティブ研究に従事している指定討論者の先生方にコメントを頂戴し、ナラティブを媒介とすることで研究課題がいかに発展的に展開されるのかについて、より具体的かつ踏み込んだ議論を行いたいと思います。

企画を務めますのは、岡山大学大学院の福田茉莉さんと福島県立医科大学の日高友郎です。司会は私（日高）が務めます。話題提供者としては3名の方をお招きしています。関西学院大学の廣瀬真理子先生、日本学術振興会特別研究員（立命館大学大学院）の山田早紀さん、そして最後に岡山大学大学院の福田さんです。話題提供者からの研究報告が終わりましたら、続いて指定討論者として神戸大学の森岡正芳先生、大阪府立大学の田垣正晋先生からコメントを頂戴したいと思います。